



～城東地域活動委員会報告ニュース～

平和のお菓子 について



『PALco・op の P は Peace の P』 partⅣ 開催時に試食しました



平和のお菓子 バウムクーヘン

バウムクーヘンはドイツ発祥の焼き菓子で、木の年輪のように見えることから、ドイツ語で樹木を意味す Baum（バウム）とケーキを意味する Kuchen（クーヘン）で「木のケーキ」と呼ばれています。

大正時代（1912～1926 年）、^{にのしま}広島^{のしま}の似島捕虜収容所にお菓子作りが得意なカール・ユーハイムという人がいました。

ユーハイムは、第一次世界大戦時（1914～1918 年）、ドイツ人捕虜として、日本に連れてこられました。当時、日本は捕虜を大切に扱っていませんでした。塙の中で強制労働…、というようなイメージでは全くなく、地域の人と交流、サッカーの交流試合も行われるなど、捕虜の生活も驚くほど自由なものでした。彼は収容所でバウムクーヘンを焼く機械を自作し、同じく捕虜だった仲間や日本人と共にお菓子作りに励んだのです。

大正8年（1919 年）、広島県物産陳列館（今の原爆ドーム）でドイツ人捕虜による作品展覧会が開かれ、ユーハイムは、日本初のバウムクーヘンを披露しました。そこで大変な人気を集めたお菓子バウムクーヘンは、その後日本中に広がっていきました。

日本で作られている洋菓子の中でも、これほど戦争と平和を象徴するシンボルと密接につながっているものは他にないかも知れません。



厚切りバウムクーヘン

8 個



厚切りのしっとりとしたバウムクーヘン

（次回企画 10 月 4 回）



城東区の戦跡 について

今年は戦後80年。城東区の JR 京橋駅に80年前の空襲で犠牲になった方を弔うために建てられた「京橋駅爆撃被災者慰霊碑」があります。

1945 年 8 月 14 日 午後 1 時前後、米軍の B29 145 機が大阪砲兵工廠を爆撃、1 トン爆弾をばらまきました。京橋駅にも5つの爆弾が落ち、うち1発が多数の乗客が避難していた片町線ホームに直撃。死者 700～800 名とされています。



京橋駅爆撃被災者慰霊碑

JR 京橋駅南口を出てすぐの所にあります

毎年 8 月 14 日に慰霊祭が執り行われています。

「平和よ永遠なれ」と記されています



平和祈念像